

資料2 別添1

各地域包括ケア推進会議における論点

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
新松戸	5月20日	町会	1	医師	1	ケアマネ	2	1. ケアメンカ フェの実施報告 と今後の展開 2. 公園DE体操 実施報告と今後 の展開 3. コロナ禍で 困り事とどのよ うな事ができれ ば良いかグルー プワークにて意 見交換	コロナ禍で各地区の活 動が中止になり、閉じ こもりが増えて心身状 態が低下している。	家族の集いなど、介護者同 士が集まる場が少ない。コ ロナの事もあり、地域の集 まりが開催できない。	○感染対策をとりながら イベントの再開 ○感染対策方法の周知 ○集まらざる見守り 活動	○感染対策の啓発を各自治会 や町会向けに実施 ○電話、手紙で確認等の見守 り継続	○オンラインの環境を整える 為の制度がある旨の周知 ○活動時の対応方法の周知
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	3	看護師		訪問介護							
		ボラン ティア		作業療法士		訪問看護	1						
		高支連	1	医療相談員	1	地域包括	2						
		NPO	2	理学療法士	1	市役所	3						
		企業	1	警察		特別養護老 人ホーム							
				消防		小規模多機 能							
				合計	22								
矢切	5月14日	町会	1	医師	2	ケアマネ	2	1. 「心配な高 齢者世帯につい て～男性介護 ～」 2. 「心配な高 齢者世帯につい て～地域の声～」	認知症高齢者を介護す る男性介護者への支 援。	認知症の高齢者を介護する 男性介護者。認知症が重度 になり家族介護が限界を迎 えた時点で相談、支援介入 になる。	○町会や民生委員等のお 声掛けの工夫や認知症の 方に対する理解の普及啓 発、関係機関の連携等	○見守りが必要な場合に各機 関で家族の了承を得ながら情 報共有等	○オンラインの環境を整える 為の制度がある旨の周知 ○活動時の対応方法の周知
		地区社協	0	歯科医師	1	介護事業者	4						
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護	3						
		民生委員	0	看護師	1	訪問介護	0						
		ボラン ティア		作業療法士	1	福祉用具	1						
		高支連	0	学識経験者	1	地域包括	4						
						市役所	4						
				NPO法人	1	特別養護老 人ホーム							
				消防	0	小規模多機 能	2						
				合計	26								
						軽度認知症が疑われる場 合声掛けが難しい。プライ ベートな問題について介入 しづらい等（民生委員アン ケート内容より一部抜粋）	○認知症サポーター養成 講座、バトワーク、介 護者のつどいなどの既存 資源の活用や関係機関と の連携強化のためのネッ トワーク構築等	○地域包括に早期相談を促し ながら資源につなげる。					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
東部	3月10日	町会	医師	2	ケアマネ	1	認知症の人が利用できる社会資源について	認知症の人を支える家族や当事者の活動の場、認知症を予防するために社会と繋がる居場所が必要。	50代で脳血管性の認知症と診断され退職。社会との繋がりが無い状態で経済的に困窮していた。	○既存のカフェやサロンのさらなる充実を図り、つどいの場を開催する。	○つどいの場等の開催に対する助成	
		地区社協	歯科医師		介護事業者							
		市社協	薬剤師	1	通所介護	1						
		民生委員	看護師	1	生活支援co	1						
		ボランティア	作業療法士		訪問看護							
		高支連	医療相談員		地域包括	2						
			理学療法士		市役所	1						
			警察		松戸市後見支援セン	1						
			消防		NPO職員	1						
			合計	12								
馬橋	3月4日	町会	医師		ケアマネ	1	地域の見守り・居場所づくりの推進について	これまで認知症高齢者の見守りや居場所づくりについて検討してきたが、次のステップとして居場所づくりをどのように推進するか。	○80代、認知症。外出が好きだが、外出先でトラブルを起こしてしまう事例 ○80代、独居。コロナ禍での外出自粛により、他者との交流が減少し、意欲低下や体力低下が起きている事例	○居場所づくりの場所として、公園や休日のデイサービス、大型ショッピングモールなどが使える可能性がある。 ○担い手には、民生委員や意欲のある人がいる。 ○運営にかかる費用は、参加費を徴収するか、無料が好ましい。既存の行政の支援施策を活用していく。 ○声を掛け合える地域づくり、住民教育が必要である。	○ネコサポステーションが場所の貸し出しを行っているので、認知症サポーター養成講座を行ったり、オレンジ協力のサロンとして場所を借りる計画している。（自主的な目的でも使用できる） ○認知症予防教室終了後の参加者が運動の自主グループ化を目指している。 ○居場所の運営に係る費用の助成 ○既存施策の周知	
		地区社協	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護						
		民生委員	2	看護師・保健師	1	訪問介護						1
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護						
		高支連		医療相談員		地域包括						5
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所						2
				警察		特別養護老人ホーム						
						訪問看護						1
				消防		看護多機能						2
			合計	21								

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
馬橋西	5月28日	町会	医師	1	ケアマネ	高齢者や家族が孤立しないような居場所づくりや安否確認について	認知症サポーター養成講座への参加者が少ない。コロナ禍の通いの場や患者会等の居場所づくり。	○認知症の本人と家族支援 ○転倒リスクが高く難病の可能性がある方への支援	○医師会や薬剤師会と連携し、病院や薬局等にチラシを配置 ○居宅介護支援事業所やサービス事業所への案内の配布	○居場所づくりを含め、コロナ禍の時間を利用した、町会単位での災害時等の対応の仕組み作り	○認知症サポーター養成講座を医師会のまちっこプロジェクトと協働 ○新松戸の大学等、若い世代に活躍してもらおう仕組み作り		
		地区社協	1	歯科医師	1							介護事業者	
		市社協	1	薬剤師	2							通所介護	
		民生委員	2	看護師								訪問介護	
		ボランティア		言語聴覚士	1							訪問看護	1
		高支連		医療相談員								地域包括	4
				理学療法士								市役所	2
				警察								特別養護老人ホーム 小規模多機能	
		消防											
				合計	16								
本庁	5月26日	町会	2	医師	4	ケアマネ	1.小山地域の実態を把握する 2.小山地域の高齢者が買い物続けることができるかを 考える	買い物に関する情報をはじめ、情報へのアクセスが難しい	○町会の回覧板や広報まつど、SNSなど、どの方法が有効な周知方法か把握を行う。	○出張包括相談を行う際の場所の選定 ○オンラインでの認知症予防を行う ○地域包括主催のスマホ講座等も検討	○市のホームページでの包括支援センターの周知		
		地区社協	1	歯科医師		介護事業者						3	
		生活支援CO	1	薬剤師	2	通所介護							
		民生委員	2	保健師	1	訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護						3	
		高支連		医療相談員		地域包括						4	
				理学療法士		市役所						1	
				警察		特別養護老人ホーム 小規模多機能						1	
		消防			1								
				合計	24								
						地域つながりが希薄		○移動販売車を一定の場に誘致し、買い物を通じた交流の機会をつくる。 ○買い物支援のボランティアの育成	○現状来ている移動販売の拡充を図る。	○移動販売車を地域に合わせた展開方法にしよう、町会より企業へ働きかけを行う。	○生活支援コーディネーターと地域の関係機関にてワーキングとして取り組んでいく。		

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題		①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
明1	5月27日	町会	医師	2	ケアマネ	1	ア	<p>コロナ禍により、地域での活動が自粛となり、居場所作りがづらい実情がある。地域での繋がりの希薄化、居場所喪失による孤立している方がいる。その為、新たな交流・参加できる環境を整備していく必要がある。</p>	<p>○新型コロナウイルスを恐れ外出拒否している高齢者と、介護を優先し就職活動を行うことができない子。 ○認知症の配偶者を支える癌治療中の高齢者。その夫妻の介護に疲弊している子。介護者の集いが中止され、相談できる場がなくなり介護者が孤立している。</p>	<p>○孤立化防止の為、オンラインでの繋がりを持つことが必要だが、自力での環境整備には困難がある。通信環境や知識をどのように提供するかの検討が必要 ○オンラインだけにとられず、目的に応じたリアル・オンラインの繋がりの構築 ○屋外を利用した、小規模で繋がれる場の工夫</p>	<p>○随時地域ニーズを把握しながら、開催方法を変更して活動を再開している。 ○オンラインによる集いの場開催に向け、オンラインの知識習得、環境の整備を行っている。 ○リアルな活動を行う際、感染対策には十分注意することが重要。</p>	<p>○誰でも利用できる、公共施設を拠点とした、IT環境が整備されたステーション作り ○専門職が集いの場やサロン等にオンラインで参加し、介護予防の視点を見据えた相談体制の確立</p>	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	2	保健師	1	グループホーム							2
		ボランティア生活支援CO	1	作業療法士		認知症デイ							1
		子ども食堂	1	理学療法士		地域包括							5
		若年性認知症の会	1	警察		市役所							1
		ボランティア協力員	2	消防		介護者							2
						合計							27
五香松 飛台	3月25日	町会	医師	1	ケアマネ	7	ア	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で認知症に関する相談が前年より約2倍増加。コロナ禍でも可能な「認知症予防」活動についての検討、普及啓発が必要である。</p>	<p>○介護者が認知症で金銭管理ができていない事例○同居の子が本人の認知症状を把握していない事例</p>	<p>○地域づくり交流会と連携して地区内のウォーキングマップを作成 ○認知症予防の冊子作成</p>	<p>○地区内の車通りや観光スポット、トイレ・ベンチの有無を確認 ○食事や運動について詳しく掲載</p>		
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	2	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護							
		高支連		医療相談員		地域包括							5
		管理栄養士	1	理学療法士	1	市役所							2
		生活支援CO	1	警察		特別養護老人ホーム							2
		青少年プラザ	1	消防		小規模多機能							
						生活相談員							
				合計	25								
						イ	<p>コロナ禍で社会参加の場・活動の場が減少しており、フレイルやADLの低下が進んでいる。</p>	<p>若年性認知症の方の支援に関する事例</p>	<p>○オンラインの普及啓発 ○体操DVDを作成配布 ○出張体操教室の開催</p>	<p>○プロボノを活用した教室などの開催 ○包括による出張体操教室(2箇所)の普及活動</p>	<p>○タブレットの貸出</p>		

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題		①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
明2西	5月12日	町会	医師	ケアマネ	3	1. 明第2西地区の8050問題事例報告 2. 松戸市の重層的支援体制整備事業に向けた取り組み(地域共生課) 3. ひきこもり支援活動～個別支援からネットワークづくりへ	ア イ ウ	8050問題の発見・介入が遅れがちである。	同居の精神障害の子が暴力事件で警察に保護され入院。緊急ショートステイを利用せざるを得なかった。	○ケアマネ・民生委員に対し、8050問題のある家庭を見つけた時の相談先を周知する。	○ケアマネ・民生委員向けの研修・勉強会を実施する。		
		地区社協	歯科医師	2	介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	1								通所介護
		民生委員	看護師		訪問介護								
		ホランティア	作業療法士	1	訪問看護								
		高支連	1	医療相談員	地域包括								
			理学療法士	1	市役所								
			ほっとねと	1	特別養護老人ホーム								
	警察・消防		生活支援CO										
			合計	25									
小金原	5月11日	町会	2	医師	2	ケアマネ	1	複合的な問題を抱える世帯への支援が必要なケースが多い。	○80代夫婦と定職に就いていない子の世帯 ○80代夫婦と就業していない子の世帯	○気持ちを理解する ○見守る、声をかける ○相談のきっかけになる ○相談先を知る	○地域共生について理解を深め、支え手を増やす。 ○みんなが地域について話せる場所作りをする。	○地域のパートナー講座(出前講座)に8050問題を追加して、市民が勉強する機会を増やしてほしい。	
		地区社協		歯科医師		介護事業者							
		市社協		薬剤師		通所介護							
		民生委員	1	看護師		訪問介護							
		ホランティア	作業療法士	1	訪問看護								
		高支連	1	医療相談員	地域包括								
		オレンジ協力員	1	理学療法士	市役所								
		生活支援CO	1	警察	特別養護老人ホーム								
			消防		小規模多機能								
	管理組合	1	合計	21									

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
常盤平	5月20日	町会	1 医師	1 ケアマネ	7	地域課題から見てきたものについてグループワーク テーマ：コロナ禍であってもフレイルに陥ることを防ぐためにできること	A 感染予防のため自主的活動やサービスを中断し機能低下に陥る人への対策が必要	コロナ禍により介護サービスを中断し、運動能力・生活意欲の低下がみられた事例	〇感染対策のもと屋外でのラジオ体操などを復活させる。	〇各地区で体操や太極拳など密にならない屋外での取り組みを行う。	〇オンライン体制整備。
		地区社協	1 歯科医師	1 介護事業者							
		市社協	薬剤師	1 通所介護							
		民生委員	1 保健師	2 訪問介護			イ オンラインで他者と繋がったりセルフケアができるようなシステム作りが必要	コロナ禍により介護サービス中断し、運動能力の低下と生活意欲の低下がみられた事例	〇スマホ教室やオンライン講習会を開催し、高齢者がオンライン事業に参加できる状況を整える。	〇高校生からタブレットの使い方を教えてもらう場を作る。 〇まつど体操を作り、YouTubeで流す。	
		ボランティア	作業療法士	訪問看護							
		高支連	医療相談員	2 地域包括	4						
		生活支援CO	1 理学療法士	1 市役所包括ケア推進課	3		ウ 密を避けた交流やケアの場、新しい生活様式の即した活動の多様化	認知症の方の感染対策について多職種でできることを検討したい。	〇集いの場に栄養士等専門職が出向いて栄養相談など行う。 〇大勢の人を集めない取組を各地区で行う。	〇地域で屋外での行事を実施する。 〇出張包括やオンライン相談の利用	〇屋内外で密にならずに集える場所の提供。 〇学校などに働きかけweb利用で若い世代との交流できるようにする。 〇ワクチン接種の工夫。
		司法書士	1 栄養士	1 特別養護老人ホーム							
		サロン	1 商店	4 小規模多機能	1						
			合計	34							
常盤平 団地	3月4日	町会	1 医師	1 ケアマネ	5	1.情報化社会をキーワードとした孤立化、孤独化の予防について 2.解決に向けた取り組みを発表 自主解決、地域課題、市への提言の切り分けを行う	A コロナ禍で生活様式が一変し孤立化、孤独化が進む中、高齢者がオンラインを活用したコミュニケーションを身近に感じ、扱うことが出来る方法を検討。	90代事業対象者。基礎疾患あり。弱視により、文章は拡大鏡を利用している。新型コロナの影響もあり介護保険の半日デイと契約したものの、利用を控えている。本人納得の上、利用を開始するか、代替えの手段の検討が急がれる。	〇ネット通販の活用 〇ICT周知活動のボランティア 〇傾聴ボランティアのインターネット化 〇デイサービスでタブレットを使って脳トレ（機器に慣れる） 〇スマホ教室の継続	〇団地にインターネット環境を整える（URとの調整） 〇タブレットを配布し若い世代と協働で高齢者にIT活用法を教えてくれる場所、場を支援する。 〇アナウンス付き電子掲示板で色々な情報を出していく。	
		地区社協	1 歯科医師	介護事業者							
		市社協	1 薬剤師	1 デイサービス管理者	1						
		民生委員	3 看護師	2 福祉用具管理者	1						
		ボランティア	作業療法士	訪問看護							
		高支連	医療相談員	1 地域包括	4						
			理学療法士	市役所	1						
			警察	UR管理事務所	1						
			消防	司法書士	1						
		合計	25								

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
六実六高台	5月19日	町会	1	医師	1	ケアマネ	4	高齢者のオンラインの普及について	高齢者にオンラインの使用を普及させるにはどうしたらよいか。	○コロナ禍で地域の集いの場・通いの場が休止。 ○ほぼ自立している高齢者が自立した生活を継続するために地域で何ができるか。	○インターネットの普及具合を把握する。	○運動教室や啓発活動の際にインターネットの普及具合を確認 ○オンライン以前に高齢者が困りごとを相談できる窓口（地域包括支援センター）の周知	○公共施設のWi-Fi環境の整備。 ○オンライン教室の開催。 ○高齢者がオンライン整備後、使用できるよう情報提供、参加しやすい仕組み作り。
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師		通所介護	1						
		民生委員	1	看護師		訪問介護	1						
		ホランティア		作業療法士		訪問看護	1						
		高支連		医療相談員		地域包括	3						
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	1						
				警察		特別養護老人ホーム	1						
						小規模多機能	1						
						グループホーム	1						
				消防		保健福祉センター	1						
						合計	21						